多民族国家 マレーシア

クアラルンプール日本人学校

前クアラルンプール日本人学校 教頭
浜頓別町立浜頓別中学校 教頭　佐 藤 敦 彦

１　多様性の国 マレーシア

急速に近代化が進む首都クアラ・ルンプール（ＫＬ）は，ペトロナス・ツインタワーに象徴される超高層ビル群と，異国情緒あふれる建造物とが混在する，人口約１５０万人の大都市である。ＫＬから少し足を運べば，南国の魅力あふれる島々や荘厳で神秘的な山々など，豊かな自然が広がっている。

住民の６割以上を占めるマレー系のほか，華人系，インド系等の人々が，それぞれの文化を持ちながら穏やかに共存している。宗教の自由を認めているため，国教のイスラム教をはじめ仏教，ヒンズー教，キリスト教などの信仰が見られ，様々な生活様式が混在して活気にあふれている。多様な食文化の恩恵を受け，一般の旅行者でも，驚くほど豊富な種類の料理を堪能することができる。

【人　口】

約２，７００万人（2007年３月現在）
約１，７５５万人〔マレー系〕約６５％
約　　６７５万人〔中 華 系〕約２５％
約　　１９０万人〔インド系〕約　７％

【面　積】

約３３万平方キロメートル〔日本の約９割〕

【気　候】

熱帯雨林気候に属しているマレーシアは，年間の平均気温が26～27℃で，一年を通じて常夏の気候である。キャメロンハイランドなどの高原地帯は，一年を通じて常春で過ごしやすい。

乾季と雨季の季節があり，どちらの季節にもスコールと呼ばれるにわか雨が降る。雨季でも一日中雨が降ることはなく，降雨後は気温が下がり，むしろ快適になる。気候は，マレー半島の「西海岸と東海岸」，「半島とボルネオ島」で異なる。

⑴ マレー半島西海岸
（ＫＬ，ペナン島，ランカウイ島など）

５月～９月が比較的雨の多い時期だが，一日中降り続くことはないので，この時期にビーチへ出かけても問題はない。

⑵ マレー半島　東海岸
（レダン島，ティオマン島など）

11月～３月が雨季で，この時期にはときおり激しい雨が降る。ビーチによっては，ホテルを閉めてしまうところもある。

⑶ 東マレーシア
（ボルネオ島……サラワク州＆サバ州）

11月～３月は，モンスーンの影響を受けて雨季になる。サラワク州は，半島東海岸と同様，激しい雨が降ることがあるが，サバ州は，キナバル山から吹く風の影響で雨が少なく，この時期に旅行をしても特に問題はない。

【交　通】

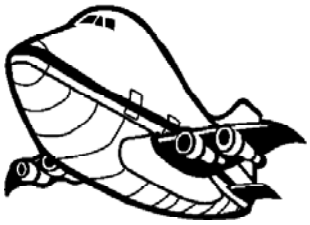
⑴ 鉄　道

マラヤ鉄道がタイ国境からシンガポールまで縦断している。ＫＬ周辺では，高架電車や近郊通勤列車，モノレールが整備されてきた。

⑵ 道　路

イギリスの植民地時代から道路が整備されていたが，特に，近年は都市部を中心に道路が整備され，高速道路建設も進んでいる。市街地では，国産車プロトンを使ったタクシーが多数走り，バス路線網も徐々に増えてきた。

⑶ 航空路



国内の主要都市は，マレーシア航空やエアアジアなどの航空会社によって結ばれている。ＫＬ国際空港は，ヨーロッパとオーストラリアとを結ぶ「カンガルー・ルート」の中継地のひとつとして利用されている。

日本との間には，東京や大阪，名古屋などの主要都市とＫＬ，コタキナバルの間に，マレーシア航空と日本航空が毎日直行便を運行している。また，台北や香港，バンコク，シンガポールなどの乗り継ぎ便を利用することもできる。

【宗　教】

マレーシアの国教はイスラム教だが，憲法で信仰の自由が認められている。主に，マレー系はイスラム教，中国系は仏教・道教・儒教・キリスト教，インド系はヒンズー教・キリスト教などを信仰している。

マレーシアの教育基本方針のひとつに「宗教心の育成」が掲げられ，ムスリム（イスラム教徒）には，小学校から宗教教育が行われている。

ムスリムと交際する場合の留意点は，

① 握手をしたり物品の授受をしたりする場合は，必ず右手で行う。（左手は不浄なものとされている。）

② 女性と握手をする場合は，先方が手を出すまで待つ。（女性に対し，こちらから握手をを求めてはいけない。）

③ 子どもへの親愛の情を表す場合は，肩を軽くたたくなどする。（子どもの頭をなぜてはいけない。）

④ 人を指し示す必要がある場合は，軽く手を握り親指で行う。（人差し指を人に向けるのは失礼である。）

⑤ 一般家庭を訪問した場合は，靴を脱いで家屋に入る。（先方から靴のままでと言われることもある。）

⑥ イスラム教寺院に入る場合は，必ず靴を脱ぐ。女性は肌を出さない服装をする。（礼拝をする人たちの邪魔にならないように心がける。）

【教育事情】

マレーシアの学校制度は，日本と同じ六・三制で，すべての学校が国の定めるカリキュラムにしたがって授業を行っている。ただし，義務教育ではなく，地方では学校に通わない子どもが極少数ながら見られる。

それぞれの民族の文化を尊重するため，小学校段階では中国語やヒンズー語での教育を認めているが，国語であるマレー語は必修で，中学校以上の教育はマレー語で行われる。

政府は，２０２０年の先進国入りを目指して国内に４０校の全寮制中高一貫校を設置するなど，人材育成のための教育に力を入れている。

【言語教育の特色】

公用語はマレー語と定められ，教育用語もマレー語が使用されている。ただ，小学校教育は，民族的な配慮から，中国語，タミール語で授業を行う学校への就学も認められている。

初級・上級中学校，大学予科の授業はマレー語で行われ，上級中学校までの教育課程は統一カリキュラムにしたがっている。また，宗主国であったイギリスの影響が大きく，英語の普及率が極めて高くなっている。ただし，半島東海岸地域や農村部では，あまり使われていない。

また，日本語教育についての関心が高く，日本語教育を行う機関数，教師数，学習者数，どれをとっても世界１１５か国中１５位前後に位置している。これは，前首相が提唱した東方政策の影響が大きいと思われる。国立全寮制中高等学校では，５０校中３５校以上で第二外国語として日本語が教えられている。ちなみに，第一外国語は英語，第二外国語は中国語，アラビア語，ドイツ語，フランス語等である。国立大学で日本語専攻を行っているのはマラヤ大の言語学部のみで，日本語コースはすべての大学にある。

２　クアラルンプール日本人学校（ＪＳＫＬ）

〈 校 門 〉

ＫＬに在留する学齢期の邦人数は，ここ数年１０００名程度を推移し，その８割ほどがＪＳＫＬに在籍する。自家用車等を利用する数名を除いたすべての子どもたちが，スクールバスで通学している。校門と校舎の間の広いバスベイには，毎朝夕２０台以上のバスが行き来する。

ＫＬの南西郊外に位置するＪＳＫＬは，約７万㎡の敷地の中に，ゆったりとした３階建ての校舎を構えている。冷房完備の各教室と，体育館・グラウンド・プールが２つずつあるという恵まれた環境で，子どもたちはのびのびと活動している。

ＪＳＫＬには，小・中学部のほかに幼稚部が設置され，中３の保育実習などの交流がある。また，特別支援学級では数名が学習している。

〈西グラウンド〉

世界各地の日本人学校で工夫しているように，ＪＳＫＬでも，日本とほぼ同じ教育課程に加えて，現地ならではの教育活動を展開している。これらは，学校教育目標である「たくましいからだ，豊かな心，優れた知性と国際性を備えた児童・生徒の育成」を実現するために，必要不可欠な取り組みになっている。

【国際交流】

⑴ 現地校との相互訪問

年に１度ずつ，学年ごとに現地校と相互学校訪問を行っている。ＪＳＫＬの子どもたちは，浴衣を着たり，おはじき・けん玉・竹馬などの遊びや書道・和太鼓を紹介したりして交流を深める。また，チョンカ（石取りゲーム）や竹細工など，マレーシアならではの体験を通して，「言葉がわからなくても，笑顔と相手を思いやる心は通じる」ことを実感する。

⑵ カンポン ホームステイ

小学部５年以上の希望者を募り，１学期終了直後にカンポン〔マレーシア語で「田舎」を意味する）で２泊３日のホームステイを行っている。毎年約１５０名が２・３人に分かれて現地ホストファミリー宅に滞在し，食事（手を使って食べる），トイレ（水洗いする），マンディ（頻繁に水浴びする）などの習慣の違いに戸惑うこともなく，マレーシアの暮らしにどっぷりと浸る。さらに，地元の人たちとの交流会で，剣道・琴・創作ダンスなど，日本文化の一端を紹介する。

⑶ 日本人会盆踊り大会

７月中旬に，陸上競技場を借り切って日本人会主催の盆踊り大会が開催される。すでに３０回を超えるこの大会には，現地の人たちを含めて約３万人が参加する。事前に，中学部と保護者が協力して，現地校の生徒に踊り方を教え，当日は，人の渦の中心に据えられた櫓で，太鼓と踊りを披露する。

【英語活動】

日常生活で英語に接する機会をつくり，自然に英語が身につくように，３種類の英語活動を取り入れている。小学部３年までは，週１時間の歌やゲームを通して少人数で英語に親しむ活動（ＥＭ）を行い，全学年で週１・２時間英会話（ＥＣ）を学習する。また，温暖な気候を生かして，週１時間ネイティブスピーカーのコーチから英語で水泳指導（ＩＳ）を受けている。年間３０時間以上続けると，英語の上達とともに，見ちがえるほど泳力及び体力が向上する。

【体験的進路学習】

キャリア教育の一環として，中学部１年が職場訪問，２年が職業体験を実施している。日本国内と異なり，移動手段や会話などの多くの困難があるが，日系企業を中心とする約３０社の協力によって，毎年継続している。日常生活圏が狭い生徒にとって，接客・製品検査・編集作業・店内装飾などの体験は，職業について学ぶ貴重な機会となっている。

【課外サークル活動】

小学部５年以上の希望者が，日本の部活動に相当する課外サークル（運動系６，文化系２）で週１・２回活動している。異年齢の子どもたちが集い，体力や情操を養うことを目的とするほか，現地校及び国際校との試合にも積極的に参加して交流を深めている。

３　おわりに

外から日本人を見ると「誠実である」ことがよくわかる。高度経済成長を支えた「勤勉さ」を模範とする国々も多いと聞く。これからの世界には，グローバルな視点で冷静に考察し，その役割を着実に果たす日本人が求められている。私たち教師は，ぜひとも，豊かな感性と自覚を持った子どもたちを育て，世界の期待に応えていきたいものである。